

日本養豚大学校 2018年度 初級コース 第5期 受講生募集

「日本養豚大学校」は第一に、そこに学ぶ者が「養豚産業」の日本の社会における存在意義と責任を十分に理解し、自らの仕事に誇りをもてるような“哲学”の共有をめざして設立し、2013年9月に開校致しました。これまでに第4期生が全課程を修了し、受講生及びその経営者の皆様から高い評価を頂いています。

第5期の受講生を次ページの要項の通り募集致しますので、熱意ある皆様の応募をお待ちしています。

人材の育成こそが日本養豚継続の鍵となる！日本養豚大学校では、次代の養豚産業、そして地域社会を担う「人づくり」をめざしており、年3回のスクールを通して再生産可能な養豚経営を実践できるだけの“知恵”を発揮することができるよう、基礎から実践までの知識を教授します！

2018 年 2 月 23 日

日本養豚大学校 校長 志澤 勝
同 運営委員長 稲吉 弘之

日本養豚大学校

概 要	日本養豚大学校 校長 志澤 勝 同 副校長 日高良一 同 運営委員長 稲吉弘之
主 催 団 体	一般社団法人日本養豚協会（JPPA）
後 援	日本養豚事業協同組合 日本養豚開業獣医師協会（JASV）
事 務 局	JPPA内（担当：海老原達之、神長亜紀）
大 学 校 設 立 協 賛 企 業	中部飼料株式会社 ・ 日清丸紅飼料株式会社 ・ 日本農産工業株式会社 日本養豚事業協同組合 ・ 有限会社コマサファーム ・ 有限会社ブライピック 有限会社マルミファーム ・ 有限会社モデルジャパン 協同飼料株式会社・日本配合飼料株式会社（現フィード・ワン株） 他9企業

【問い合わせ先】

一般社団法人 日本養豚協会（JPPA）内 日本養豚大学校 事務局（担当：海老原、神長）
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-15 高栄ビル2階
TEL : 03-3370-5473 FAX : 03-3370-7937
E-Mail : jppa.office@pig-pins.com

日本養豚大学校 初級コース第5期 募集要項

◆ 開講時期 (予定) 天災・悪性伝染病等の影響により変更する場合があります

- ・ スクール① 2018年5月14日(月)、5月15日(火)、5月16日(水)
- ・ スクール② 2018年7月30日(月)、7月31日(火)、8月1日(水)
- ・ スクール③ 2018年9月25日(火)、9月26日(水)、9月27日(木)

※ 各スクールとも前夜に指定の宿泊場所に集合

※ スクール①～③を履修し、課題レポートを提出した者に初級コース修了証を発行します

※ 各スクールのカリキュラムについては別紙①をご参照ください

主たる開講場所

学校法人麻布獣医学園 麻布大学内

神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71

JR横浜線「矢部駅」より徒歩4～5分



◆ 受講料

初級コース受講料 1人 162,000円(税込) 【前払い制】

※ 実習費用、講義資料および教科書代を含みます

※ 交通費および宿泊費・食費は含みません(ただし、宿泊については事務局にて一括予約)

※ 受講が確定した方には、経営者宛に受講料の請求書をお送りします

※ 雇用保険加入各社においては、自治体のキャリアアップ助成金人材育成コース等の活用をお勧めします。(詳細はJPPA事務局へお問い合わせ下さい)

◆ 募集定員

36人



◆ 受講要件

- ① 就業半年以上の生産現場で働く後継者・従業員(現場で使う最低限の用語を理解できる方)
- ② 学歴不問 ただし学習意欲のある方
- ③ 受講対象者は、経験年数は5年以内、年齢40歳未満の方が優先となります。(応相談)
- ④ スクール①～③の日程をすべて受講できる方(代替受講は原則認めません)
- ⑤ 受講生が毎回持ち帰った知識や技術について、現場でのフォロー体制が取れる方
 - ・ 受講者のレポート類に経営者や場長が目を通し、学んだことを現場で実践できる環境を整えていただくこと
 - ・ 与えられた次のスクールまでの宿題をフォローできる体制を整えていただくこと

◆ 受講者決定方法

参加希望者が募集定員を上回った場合には、日本養豚大学校運営委員会において下記の方法で受講者を決めさせていただきますので、ご了解をお願いします。

第1段階 1経営体からの受講者は1名とする

第2段階 上記で絞り込めない場合は抽選とする

◆ 応募締切

2018年4月16日(月)

※ 所定の受講希望書(別紙②)に必要事項を全てご記入のうえ、FAX(03-3370-7937)にてJPPA事務局まで応募ください。

※ 受講受入れ結果については 4月25日頃までに報告致します

※ 開催期日が近づきましたら、注意事項、宿泊場所等を記載した「受講のしおり」を各スクールごとにお送りします。

◆ 今後の養豚大学校運営の為に、広く協賛企業を募集しております。ご協力頂けますよう宜しくお願い致します。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

日本養豚大学校 初級カリキュラム

※講義内容・時間割は変更となる場合があります

スクール①

第1日目	第2日目	第3日目
開校式 ① 産業 養豚産業の社会的責任と役割 ② 産業 養豚の哲学 ③ 産業 世界の養豚、日本の養豚 ④ 産業 安全な食肉生産 ⑤ 繁殖 養豚場の仕事：繁殖編 ⑥ 肥育 養豚場の仕事：肥育編 ◆ 懇親会	⑦ 繁殖 更新豚の育成、種豚の選び方 ⑧ 繁殖 ボディコンディションと初乳の重要性 ⑨ 繁殖 繁殖成績の取り方とチェックポイント ⑩ 実習 豚の外貌検査 ⑪ 実習 ボディコンディションとP2の測定 ◆ 課題作業	⑫ 繁殖 母豚を知る：雌豚の繁殖生理を中心に ⑬ 繁殖 人工授精と妊娠鑑定 ⑭ 繁殖 妊娠豚の管理と繁殖障害 ⑮ 実習 人工授精(AI)の基礎 ⑯ 実習 妊娠鑑定と直腸診断 ◆ 課題発表(班毎)

スクール②

第1日目	第2日目	第3日目
① レポート報告 ② 栄養・飼料 繁殖豚の栄養と給餌・給水 ③ 栄養・飼料 肥育豚の栄養と給餌・給水 ④ 管理・施設 分娩舎内の管理・トアラビュティグ ⑤ 衛生 パイセキリテの基礎 ⑥ 衛生 重要疾病のコントロール① ◆ 課題作業	⑦ 衛生 離乳子豚の管理・トアラビュティグ ⑧ 衛生 重要疾病のコントロール② ⑨ 衛生 消毒のポイントと農場HACCPの考え方 ⑩ 実習 保定等 ⑪ 実習 離乳豚の解剖 ◆ 課題作業	⑫ 生理・生態 豚の行動とアニマル・ウェルフェア ⑬ 管理・施設 ふん尿処理と環境規制 ⑭ 肥育 肥育豚の管理の重要点 ⑮ 管理・施設 農場防災の基礎知識 ⑯ 肥育 ケースレポート 出荷コントロールを中心にQ&A・グループ討議 ⑰ 課題作成 ◆ 課題発表(班毎)

スクール③

第1日目	第2日目	第3日目
群馬県食肉卸市場と食肉学校にて ① 流通・食肉 群馬県食肉卸売市場にて講習及び見学 ② 流通・食肉 ガイダンスと場の流れ ③ 流通・食肉 豚処理施設・部分肉処理施設の見学 ④ 流通・食肉 安全な豚肉を食卓に届ける検査の現状 ⑤ 流通・食肉 セリ場にてセリの見学 ⑥ 流通・食肉 枝肉から部分肉、食肉卸の原価計算と流通 ⑦ 流通・食肉 部分肉の模範加工見学調理実習・試食 ◆ 移動	⑧ 飼料・栄養 養豚の栄養飼料の基礎 ⑨ 飼料・栄養 飼料米・ソフトの可能性と注意点 ⑩ 飼料・栄養 飼養要求率とは何か?肥育豚舎での改善のポイント ⑪ 経営 ケースレポート ビッグ70と環境対策 ⑫ グループミーティング 修了レポート作成 ⑬ 実習・流通 バーベキュー(豚肉試食) ◆ 課題作業	⑭ 流通・経営 我々の育てた豚の価格はこうして決まる ⑮ 衛生・管理 農場における5S導入のすすめ ⑯ グループミーティング ⑰ 総合討論・発表会 修了式



日本養豚大学校 受講希望書

初級コース第5期(〆切：4/16)

【受講希望者】

氏名ふりがな		性別	喫煙の有無
受講者氏名		男性・女性	喫煙・禁煙
勤務先農場・会社名			
勤務先住所	〒		
勤務先TEL		勤務先：	F A X：
携帯電話番号			
受講者年齢	歳	農場経験年数：	年
現在の担当部署			
各種サイズ確認	身長	cm	長靴
	ツナギ：	L・2L・3L・4L・5L・6L	

※ツナギは若干小さめの仕様です。希望のサイズが用意できない場合もありますので予めご了承ください。

【経営者情報】

経営者氏名			
農場・会社名			
住所	〒		
TEL		F A X：	
母豚頭数規模	頭	従業員数：	名

【大学校派遣担当者情報】 ※派遣担当者が経営者と同じ場合、*欄は記入不要です

大学校派遣担当者名*			
住所*	〒		
TEL*		F A X*：	

*印の電話、FAX番号は、派遣担当者につながる番号をご記入下さい

【受講中の宿泊に関して】受講期間中の宿泊場所はJPPAで手配致します。防疫の関係上、指定するホテルへ、スクール毎、前日(日曜日)入りで入って頂きます。詳細は入学確定後にご案内致します。

日本養豚大学校への希望(具体的に)あるいは質問などがあればご記入ください

--